

市長から職員に対し、宿題が出ています。職員は悩んでいます。それに対し、市長は何度もその取組みの必要性について職員に話をしています。その内容についてご紹介します。

事業を市民のみなさんに

「1課につき1事業、市民のみなさんにお任せできないか」と各課に宿題を出しています。

職員は、「事業の目的を市民のみなさんに上手く伝えられない」「受け皿がない」と言います。一方で市民の方からは、「役所がやるべきことをなぜ市民にやらせるんだ」という意見もいただいております。

職員は、「受け皿がない」と嘆くのではなく、受け皿を作り出すのが仕事だと私は思います。一方、市民のみなさんには、「自分たちが納めた税金は、自分たちのために使おう」と考えていただきたいと思います。

この目的は、市民のみなさんに「自分には役割がある」「自分は必要とされている」と実感していただくことです。仲間を増やし、「きょういく」と「きょうよう」を持っていただくことです。つまり「今日、行くところがある」「今日、用がある」という毎日を送っていただくためです。

例えば、文化の家で行っている敬老の日の行事や、長島温泉に行く長生学園など、これまで役所がやってきたことを、自治会連合会や区ごとに予算を振り分け、地域ごとに行っていただけないかと考えています。上手くいかなかったり、失敗したりしたら、実施方法を変えることや、自治会内で話し合っ、事業自体を止めるという選択肢もあるかもしれません。

これらのことを地域で行うためには、自治会連合会や区に携わる役員数などを見直し、一緒にまちを育てていく仲間を増やす必要があります。愛知県内には、自治会やまちづくり協議会などが精力的に活動している地域がたくさんあります。そうした先進地に職員だけでなく、市民のみなさんも一緒に視察に赴いていただき、刺激をもらい、どうしたら市



自治会連合会長・区長のみなさんとも意見交換を行っています。

民と行政が一体となったまちづくりができるのか、みなさんと行政が一緒に考えることが必要だと思います。

市では、毎年、行政評価（*1）を行っていますが、それに加え、今後は「事業を市民に移す仕分け」を市民のみなさんと一緒になって行うことも考えていく必要があるかもしれません。

いずれにしても、こうした取り組みは、市役所内で自治会を担当する「たつせがある課」のみが行うことではなく、健康推進、生涯学習、福祉、その他さまざまな課が関わることです。市民のみなさんと一緒に知恵を出し合い、地域と役所が役割を分担しながら、一人ひとりに「居場所」と「役割」がある長久手市にしていきたいと思っています。

* 1 行政評価

行政の行っている様々な仕事が、その費用に見合うだけの効果（成果）を出しているのか、無駄や重複になっている部分はないのか、特定の受益者にかたよっていないかなどといった視点から行政の活動を見直し、行政の進め方を改善していく取り組み